



医師会 健康講座

ギャンブル依存症

「否認」の病気の横綱

(公財) 正光会 宇和島病院 (柿原) 渡部 三郎

■ 1 番多い精神疾患

2014年に行われた厚生労働省研究班の調査によると、ギャンブル依存症に罹病している成人は男性で438万人(8.7%)、女性で98万人(1.8%)いると推計されました。この有病率の高さは世界一であり、日本で1番多い精神疾患がギャンブル依存症ということになります。この推計を宇和島市に当てはめると約4,000人という恐るべき数字となります。そのうち治療を受けている人は30人と、未治療率(必要な治療を受けていない人の割合)は99%を越えています。アルコール依存症に劣らず、否認の病気の代表格です。

また同調査では、ネット依存は421万人、アルコール依存症は109万人と推計されました。

■ ギャンブル依存症とは

依存症(アディクション)は、

- ①物質依存、②プロセス依存、③関係依存の3つに分けられます。よく知られているアルコール依存症や覚醒剤・危険ドラッグなどの精神作用物質への「物質依存」。パチンコや競輪などのギャンブル、買い物、インターネットやゲーム、自傷や摂食障がい、病的窃盗などの行為に対する「プロセス依存」。家庭内暴力や虐待、親密な人との破壊的關係、共依存、恋愛依存などの人間關係の依存である「關係依存」です。

パチンコ・スロットが、日本のギャンブル依存症の中心を占めます。青年期に興味本位に始めたパチンコに、次第に心を奪われ、やめることができなくなります。賭け金が増え、しないといらだち、苦痛なときや、してはならないときになってしまいます。結婚したり子どもができてもやめることが

できません。負けた金をギャンブルで取り戻そうとして傷口を大きくします。大切な家族や友人との人間關係を壊しても自分の意志でコントロールできないのは病気だからです。2大症状は「嘘」と「借金」です。どうにもならなくなり、窃盗などの犯罪を起したり、自殺傾向が高まるまで病気が進行することも珍しくありません。

■ 脳の病気です

精神医学の代表的な診断分類で、ギャンブル依存症はアルコールや薬物依存症と同じグループに入れられることになりました。ギャンブル依存症者の脳の神経細胞に起こる変化が薬物依存症者の変化と同じであることが分かってきました。人類が生存し続け、より良く生きるために喜びや満足を与える脳内報酬系という神経回路があります。その回路を依存性の物質や行為によってハイジャック

クされ暴走を続けるため、意志や理性ではコントロールできなくなるのが依存症という病気の本態です。そのため、大切な財産を失っているのにやめることができず、しばらくやめていても1度手を出すとやめる前のひどい状態に逆戻りするのです。

■ 治療と回復、問合先

病気ですから治療が必要です。また回復することができます。そこで専門医療が必要とされます。断ギャンブル(やめ続け・回復し続けること)に最も重要な自助グループ(GA宇和島グループ)が生まれて7年になります。

周りも巻き込まれ、借金の尻ぬぐいを続けても改善せず、今まで困難であったギャンブル依存症からの回復に光が見えてきました。

お問い合わせは、福祉課障害福祉係(☎24-11111内線2116)へ。